

糖尿病に合併する認知症患者の在宅インスリン自己注射の指導

○大熊哲汪¹⁾、大熊啓子¹⁾、小池清一²⁾

1) オオクマ薬局、2) 小池医院

【目的】

私たちは認知症患者を対象として、在宅服薬指導を行い、本学会で発表してきた。今回は認知症に糖尿病と高血圧を合併する患者のインスリン自己注射を指導し、薬剤の使用率と血糖値の関係を解析し、服薬指導の指針を得ることを目的とした。

【対象】

糖尿病、高血圧と認知症を合併し、血糖管理が困難な1症例を対象とした。糖尿病はインスリン自己注射を行っている。調査期間は平成25年7月から26年4月までとした。患家の訪問は1カ月に最低2回は行うよう努め、訪問時ごとにインスリン使用量と血糖値（自己血糖測定を補助）、血圧を測定した。

【結果】

在宅服薬指導により内服薬は指示どおり服用できるようになり、血圧は安定した。しかし認知症は少しずつ進行し、車の運転は最近できなくなった。1日3回のインスリン自己注射は指示どおりにできないことも多く、調査期間中の平均注射率は73%、平均血糖値は215mg/dlであった（測定回数は15回）。血糖値とインスリン注射率の相関関係(r)を調べた結果、両者に負の相関が認められた。

$$r = -0.78$$

$P(t_0) < 0.005$ 、(t分布、小数例解析)

インスリンの注射率をY、血糖値をXとした場合、下記の回帰直線が得られた。

$$Y = -0.16X + 107.7$$

【考察】

本例は昨年本学会で発表したが、インスリンの注射率が80%を超えると随時血糖値は200mg/dl台に低下する事が示唆されていた。従って今回、在宅訪問時にインスリン注射を忘れず、正しく行うよう指導してきた。しかし結果として平均注射率は73%、血糖値は215mg/dlと満足できるものではなかった。

15回の測定値から得られた回帰直線と方程式より以下のことが推定される。本患者では、血糖値が100mg/dlとなるためのインスリン注射率は92%であり、また150mg/dlとなるための注射率は84%である。従って服薬指導にあたり、インスリンの自己注射は少なくとも指示量の85%以上行うことが必要であり、具体的には3日間（9回の注射）で2回以上注射を忘れないように、家族を含めて関係者を指導する必要があると考えられた。

連絡先 <http://med-aso.com> info@med-aso.com